愛の不可能性が生む愛

青柳　悦子

【要旨】

カミュの文学は徹底して矛盾の上に成り立っています。愛もまた同様です。カミュにおける愛は、根源的に愛の不可能性に立脚しています。この発表では、フランスの漫画家ジャック・フェランデズによるカミュ作品の翻案のシーンも参照しながら、相矛盾するものがぶつかり共存する本質的葛藤の場としてのカミュ世界を確認し、とりわけ母との間の複雑な愛、そしてアラブ人との関係について考察していきます。安易な理解や和解を越えたヒューマニズムと共生の可能性が、ここから見えてくるはずです。

【プロフィール】青柳 悦子（あおやぎ・えつこ）：筑波大学人文社会系教授。博士（文学）。専攻、フランス系文学理論、小説言語論、フランス語表現北アフリカ文学。主な著書に、『現代文学理論』（１９９６年、新曜社）、『デリダで読む『千夜一夜』』（２００９年、新曜社）など。主な訳書に、ムルド・フェラウーン『貧者の息子』（２０１６年、水声社）、ブアレム・サンサール『ドイツ人の村』（２０２０年、水声社）など。ほかにアルベール・カミュの作品を原作とする仏マンガの翻訳として、ジャック・フェランデズ『バンド・デシネ 異邦人』（２０１８年、彩流社）、同『バンド・デシネ 客』『バンド・デシネ 最初の人間』（共に２０１９年、彩流社）がある。